

## 社会連携研究センター の活動

平成22年度の三重大学社会連携センターの活動報告書をお届けします。

大学の使命として、教育、研究と並んで、法人化以降特に重要視されるようになってきたのが社会貢献です。社会は優れた人材の育成と、高い研究成果の創出を大学に期待していますが、それとともに、大学の研究成果を広く社会に還元し、産官学連携を積極的に推し進めることも重要視しています。

私たちの三重大学は立地も規模も典型的な地方大学ですが、それだからこそ、地域との連携を深め、地域の方からこの地域になくてはならない大学と支持をしてもらわないと、存在そのものが怪しくなってきました。教職員一同、それぞれの分野での連携を通して社会に貢献し、三重大学が地域圏大学を名実共に標榜できるように努力しています。

三重大学は、多くの構成員の努力で、地域圏大学として十分認めてもらえるような優れた実績を上げていていると思っています。文科省による22年度分の集計データでは、中小企業との共同研究数が国立や私立を含めた国内全大学の中でのランキングが107件の14位、共同研究の件数や額でも、16位(件数)、21位(額)に位置しています。教員数760名、学生数7,300名程度の国立大学の中でも中規模のスケールの三重大学としては、随分頑張っていると自画自賛することも許していただけるのではないでしょう

か。とはいえ、このような活動は下手をすると過去の成果、知識の切り売り、食いつぶしに陥る危険性があります。社会貢献を積極的に進めながら、いかに将来に花開く研究も絶やさずに進めていくか、その取り組みがますます望まれているところです。

社会連携研究センターは、本学の教職員が産官学との連携を積極的に構築し、研究を効率的に推進するために、両者の接点となって働く組織です。当センターでの様々な活動を通して、三重大学のミッションである「三重から世界へ地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す」ことを目指しています。

本研究報告書は、三重大学の教職員による平成22年度の共同研究・受託研究の成果報告、産官学連携アドバイザー・コーディネータ等からの活動報告、当センターの活動報告とともに、社会連携センターの概要と利用法等も掲載しています。

読者の皆様におかれましては、三重大学の教員の社会連携に関わる研究の一端と当センターの活動をご理解いただくとともに、当センターをこれまで以上に積極的に活用し、実りある成果を上げていただくことを願っております。

三重大学社会連携研究センター長  
三重大学理事・副学長(統括・研究担当)

武田保雄

Yasuo Takeda

